

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171300599		
法人名	株式会社アイ・ディー・ジャパン		
事業所名	グループホーム ほのぼの		
所在地	岐阜県加茂郡東白川村越原16-1-1		
自己評価作成日	令和 元年12月11日	評価結果市町村受理日	令和 2年 3月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kanistrue&jigvogyoCd=2171300599-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和 元年12月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根差した暮らしの提供 家庭的な環境で常に目と心の行き届いた介護 旬の食材を使った家庭的な料理や郷土料理の提供 季節ごとの作品づくりや掲示 職員自身も個人の個性や特技を活かし日常業務に創意工夫を持って取り組んでいる 利用者のニーズに応えられるようなケアの向上を目指している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

民家を改造したホームは、利用者だけでなく、職員や訪れる人すべてにとって、そのものが馴染みの環境である。利用者は、慣れ親しんだ家庭的な雰囲気の中で穏やかに暮らしている。平均年齢は94歳と高いが、季節に応じて郷土料理(ほう葉寿司や干し柿など)を職員と協力して作るなど、自分のできることを楽しむ暮らしができています。 小さな村が行政の一単位であり、医療機関や教育機関等の社会資源には恵まれないが、村役場の職員が顔見知りであったり、外出支援で利用する「道の駅」の店員が顔を覚えてくれたりと、利点も多い。ホームには、地域の老人クラブのメンバーが定期的に訪れ、掃除や草取り、庭木の剪定、傾聴ボランティアなどを行っており、地域の高齢者の活動の場所ともなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	長年暮らしてきた地域で暮らし続けることの大切さや必要性をよく理解しており、つながりを大切にしている	玄関入り口に「お互いに支え合いながら楽し生活する、家庭的な雰囲気自分らしく生活する」との理念が掲げている。民家を改築したホームは家庭的で、利用者と職員との「お互い様」の関係が築かれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	村に唯一あるグループホームであり、地域にはとても大切にいただいている。	地域の中で、一軒の民家のような親しみのある存在である。老人クラブのメンバーによる掃除や草取り、干艇、傾聴ボランティアなど来訪者も多く、地域の高齢者の活躍の場ともなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人クラブの方がボランティア活動に来てくださったりするなかで、認知症の方の理解などが広がっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果の報告を運営推進会議と職員会議内で実施している。改善の必要な点などを話し合い共有している	運営推進会議を偶数月に開催し、役場担当者、地域包括支援センター、民生委員等が参加している。地域の高齢者福祉に関する重要な情報共有の場となっている。家族は村外に住居がある人が多く、出席はない。	年間行事のイベントの際に開催するなど、家族が参加できるような機会を設けることを検討されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいている。地域の特徴ではあるが、すべての事をよく理解してくださっているので、相談もしやすい環境である	村の担当者とは、運営推進会議等で情報共有が図られており、連携が取れている。小さな村でもあることから顔見しりが多く、日頃の情報交換や連携は密に行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待防止委員会の開催をスタッフミーティング時に実施。身体拘束を実施した事例もない。	毎月スタッフミーティングが開催されており、その場を利用して、隔月「身体拘束・虐待防止委員会」を開いている。身体拘束はしないことを基本とし、スピーチロックについても常に意識して行動している。玄関や通用口は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どのような行為が虐待にあたるのかを啓発、虐待を行うことは犯罪であることも理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象となるようなケースはないが、今の時代背景からいずれ必要になることは想定される。そのためにも知識は必要と考えるため、研修などにも参加していく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には疑問点が残らぬように説明は行いが、もし疑問点などがあればいつでも納得がいただけるような対応をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	病院受診を家族に対応していただき、定期的に施設に来ていただく機会を設けているが、その際には職員からも普段の様子などをお話し、ご家族からの意見なども言いやすい環境に心がけている	運営推進会議への家族の参加はないが、定期的な病院受診の際に家族とのコミュニケーションを図り、意見や要望などを聴くようにしている。写真中心の「たより」は、3ヶ月ごとの発行である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングや、行事、その他でも施設に行き スタッフからの直接の声などを聞いている。普段もいつでも直接電話なども受けており、意見を反映できるような環境をつくっている	スタッフミーティングは毎月1回、非常勤職員も参加して行われている。管理者とは、日常の業務を通して良好なコミュニケーションが図れており、常に相談できる環境がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規定、給料規定にのっとり、人事考課なども年に2回実施し評価をする体制を整備している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修など、必要と判断した研修などには業務と認め参加している。研修で得た知識はミーティングなどで報告共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	村内に同じカテゴリーの施設はないが、隣接する市町村の職員や医療福祉の異業種との交流の機会があれば参加し 向上につながるようにつとめている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にインテイクを実施し、状況などを確認している。必要な環境なども判断し、入居後の生活が安心していただけるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテイク時にはご家族の状況も確認し、要望などを聞いている。施設に対して、敷居が高く感じられないような対応を心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人にとって必要なサービスはどれなのかを考えている。入居後も状況に合わせて対応できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設というよりも生活の場であることを第一に考え、暮らしていただいている。家族が多いでね～など、ここは家庭であるような会話の中で家族の一員であることを感じていただけるよう心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院の受診の対応をさせていただいたり、共にご本人を支える関係は継続していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	小さな地域の中にあるため、職員も昔からの馴染みの1人である。外部からの訪問者も歓迎している。	民家を改築したホームは、そのものが馴染みの場である。地域の住民との交流も頻繁にあり、野菜の差し入れなど「お互い様」の関係である。外出支援で利用する「道の駅」の店員とも、顔見知りとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	地域の特性から、ご近所の方が入居してこられたり、どこかでつながりのある方が入居されることが多い。もともとの繋がりなども考慮しながら利用者同士が話などができるような気配りをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の中にあるホームとして、必要とされた時には相談などにももちろん対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員ひとりひとりが、親身に利用者のことを考え対応している。感じたことなどは会議などで話し、皆で支えるような体勢となっている	日常の会話やケアを通して思いを汲み取り、ミーティングや記録で情報共有に努めている。得意なことや、好きなことができるよう支援している。娘さんの協力を得て、定期的に花の手入れに自宅に帰る利用者もいる。	ささやかなことでも、その人の思いを捉えた個性のある介護計画の立案、アプローチを心がけられたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などは、ご家族、役場などいろいろな所から把握させていただいている。その情報をここでの生活にも反映したいと考えながら支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前から情報として把握させていただくようにしているが、入居後も日々の対応の中で確認し、それに合った援助が出来るように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員、訪問看護師が参加し職員ミーティングを毎月行っている。じっくり時間をかけ、モニタリングやカンファレンスなども行い必要な援助を話し合っている	職員、訪問看護師が合同でカンファレンスを行い、利用者の状況に応じて介護計画の作成や見直しを行っている。短期目標はシンプルで分かりやすく、「介護記録」にも記載されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌、排泄表、スタッフの伝達ノートなどいろいろな記録を利用し、確実に情報共有を行えるようにしている。記録を見直すことも多く活かしている場面が多い		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能には出来ない業務形態であるが、他業種(訪問看護など)は取り入れ柔軟に対応できるようにすすめるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での暮らしの延長のような施設であるため今まで生活してきた環境とあまり変わらない暮らしを楽しんでいただけるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族にお願いしているが、普段の体調や相談内容などは事前に施設から情報を主治医に話して対応をお願いしている	村内唯一の医療機関である国保診療所が協力医となっている。通院受診が原則であるが、重度化した場合は往診も可能である。利用者や家族の希望があれば、村外の主治医に定期的に受診することもできる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師がいろいろな相談などにも対応してくれるため、いつも情報を共有できる関係ができており、必要な受診や看護を受けることができている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に情報を提供し、退院時には情報を提供していただいている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の内容によっては地域性もあり、ここでの生活の継続が困難な場合も多い。もちろんご家族との話し合いの中で事業所でできることと、ご家族の意向などをふまえ先々の支援の内容や方向を決めている	重度化した場合には、利用者、家族の意向を確認し、協力医・主治医、訪問看護ステーションと連携して方針を決定している。ホームでの看取りは条件的に難しいが、手引書は整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	おひとりずつ対応の内容も違うこともあり、訓練時にはシミュレーションをしたり方法を確認したりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日ごろから防災への意識を高めるようにしている。防災訓練は年に2回実施している。	防災訓練は、年2回実施している。過去の経験から、災害時はホームに留まることとし、地域や消防、役場にもその旨を伝えている。自家発電機、数日分の水・食料を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	おひとりずつの対応を大切にしている。狭い空間(施設内)小さな地域であるため、特に配慮しないといけないことを普段から意識している	職員は、馴染みのある方言で穏やかな口調で話しかけ、同姓の利用者が多いため、名前にさん付けで呼んでいる。小さな村で、情報がすぐに知れ渡ってしまうこともあり、職員は守秘義務を順守している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	勝手にこちらが決めるのではなく、自己決定が出来るような言葉かけなどに配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかに1日の流れはあるが、家庭での暮らしの延長線上にあるようなペースの暮らしをしていただけるような支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を結ったり、帽子をかぶったり その人らしいおしゃれを続けていただけるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえに参加していただいたり、配膳をしていただいたりしている。季節の郷土料理なども一緒に作ったり味わったりして楽しい食事になるように目指している	利用者は、食事の下ごしらえや配膳を行っている。季節の郷土料理(ほうば寿司など)を、職員と一緒に作ることもある。この冬には、干し柿を作り、おやつとして楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、毎日の摂取量などは記録に残し、体調の変化などにもいち早く気づけるように気を配っている。栄養状態などにも気を配っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの援助など、個々の能力に合わせてしている。口腔内にトラブルがあるときは医師などに相談し対応していただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の普段の様子から時間や様子で判断しお声かけや介助をおこなっている。	概して排泄の自立度が高く、トイレでの排泄を基本としている。こまめな観察で排泄状況を確認し、排泄チェック表を用いて、適切な排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の表などを用いて、管理をしている。必要な時には訪問看護師や主治医に相談を行い便秘の予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はおひとりずつゆっくりおこなっている。時間や曜日などは決まってはいるが、体調や心身の状態などに合わせて臨機応変に対応できる	一日おきの入浴が基本となっている。入浴時間帯は午後で、利用者の状況に応じて順番や入浴剤などを工夫し、楽しく入浴できるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も過ごしたい場所で過ごしていただいている。就寝の時の布団の温度なども配慮し、安眠につながるようにつとめている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報シートは個々のファイルに綴じてあり、必要な時にはすぐに確認できるようにしている。会議の時にも今の服薬内容などを確認することがよくある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の出来ることや自信につながるような役割を持っていただけるように判断し、支援につなげている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の文化祭に出向いたり、外食に行ったりするような外出はしている。ご家族とは定期的な受診時には一緒に昼食を食べに行かれたりして、外出を継続していただいている	外出支援の一環として、地域の文化祭や郷土歌舞伎などのイベントに参加している。回数は限られるが、外食をする機会もある。ホームの庭先に出て、散歩やランチを楽しむことも日課となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	特に商業施設などが周囲にないためあまりお金を使う機会はないが、使う機会があれば支援する		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に制限などは設けてはいないため、希望があれば対応する		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設らしくない造りであり、部屋の位置なども含め本人様が居心地よく過ごしていただけるように配慮している。	民家を改造したホームで、一般的な家庭の居間や台所を思わせる造りである。居間では、気のあった仲間同士で会話がはずみ、笑顔があふれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分である居間と台所と食堂は一か所に集中しており、居室以外で過ごしている時は思い思いの場所で過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご家族にもどんなものが必要かなどもお話する中で、使い慣れたものをお持ちいただくことの意味などもお伝えして対応していただいている	自分の家を思わせる居室で、落ち着いて過ごせる環境がある。ベッドに馴染まない利用者は布団を利用する等、住み慣れた環境に近づけるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お手洗いの位置などがわかるような掲示をしたり、ご自身で判断できるようにしている。		